金城学院幼稚園
2022年度

こどもニュース

1/27 発行　No.21

「一緒にあそぼうの日」に向けて

―「やってみたい遊び」から始まる「主体的で対話的で深い学び」―

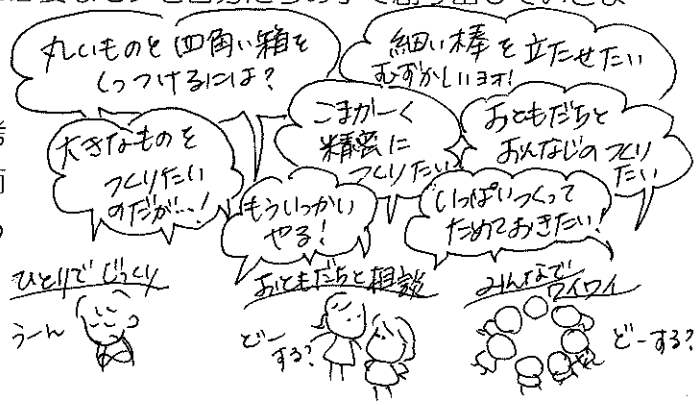
最近、保育や教育の現場では「主体的」ということばがキーワードになっています。2018 年に改訂された「教育要領」で幼稚園、小学校から中学、高校、大学まで一貫して「主体的で、対話的で深い学び(アクティブラーニングとも言われています）」を教育の柱にすえることになったからですが、これは実は金城学院幼稚園がずっと実践してきた保育そのものだと思っています。

子ども達の「やってみたい」から始まる主体的な遊びの世界では、子ども達自身が「もっと面白く遊びたい」と願いを持ちます。面白さを追求するためですから「工夫」し「探求」し、必要であれば友だちと協力したり意見をすりあわせたりしますし、様々な理由で難しい局面に直面してもへこたれません。「あ！いいことかんがえた！」と前向きに問題解決しようとするのです。やり遂げた喜びは「あー、おもしろかった！またやろう！」と次の遊びやステップへと繋がっていきます。大人から見ると「遊び」ですが、その「遊び」を通して子ども達は実に多くの事を学んでいます。

―「自分で創り出す面白さ」とその意味―

幼稚園には様々な教材がありますが、子ども達が一番喜ぶのはご存知のようにおうちの方々にご協力いただき集めているさまざまな種類の「廃材」です。
登園の時になにやら「装着」してくる、
降園の時にはなにやら沢山紙袋にいれて
「お持ち帰り」が園のスタンダードですね！

「これとこれをくっつけたらいいかな」と見通しを立てたり、接着の方法を工夫したりしながら、一度でうまくいかなくても何度でもやり直し、時には何日もかけてオリジナルの作品や、ごっこ遊びに必要なモノを自分たちの手で創り出していきます。



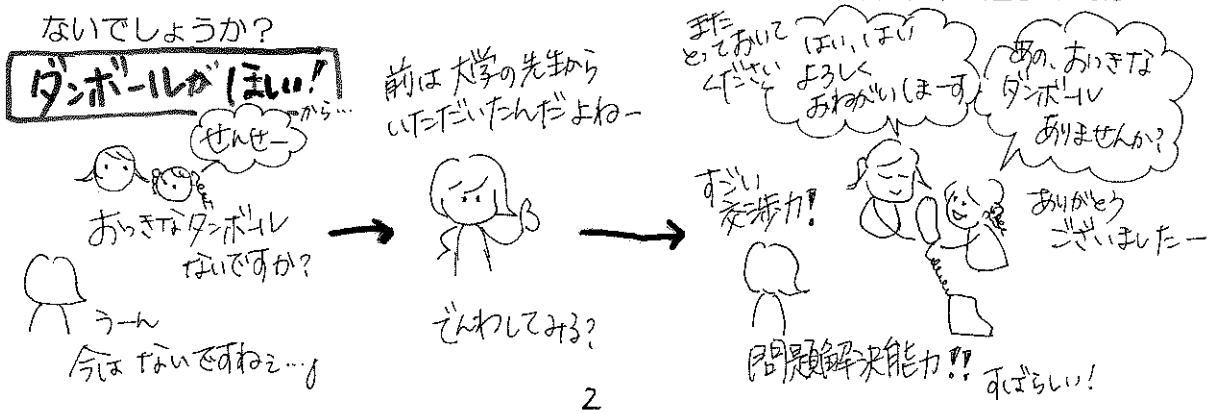
この「繰り返し試行錯誤できる」ということが実はとても大事だと考えています。今、学校や学びの場面では「繰り返し試してみる」という事がなかなかできません。

「なるべく早く正解にたどり着く」事を求められているからです。

でも物事の本当の理解は自分で繰り返し試し、考え、体感する事で獲得していくのではないでしょうか？最初から決まったキットで決まった手順の製作の完成にも意味はあると思いますが、失敗しながらも工夫し自分だけのオリジナルの作品を完成させた喜びや、友達と協力し大型建造物(おうちや基地、迷路まで!)を生み出す達成感は心にしっかりと届き積み重なる、本当に確かな経験なのではないでしょうか。

主体的な遊びを通して育まれる「生きる力」
―自分が園生活の主人公―

「今日は〇〇ちゃんと△△しよう！」と楽しみに「つもり」を持ってくる子ども達はエントランスを駆け抜けるように登園してきます。誰かに与えられた時間を過ごすのではなく、自分が今日一日の生活を組み立てる主人公だからです。学校の時間割のように大人の決めたスケジュールでも「〇〇したら△△だ」という生活の流れは理解し行動できるでしょう。でも自分が「今日は昨日の続きのマッサージ屋さんをするのに待合室をつくる段ボールがたりないから朝一番に先生にあるかどうか聞かないと！」という自分自身が思い描き、組み立てた生活を実現するための見通しやつもりに基づく計画は、言われてやる物とはずいぶんと質や中味が違うのではないでしょうか？



「やってみたい」という意欲や「どうして？」という疑問から探求や遊びが始まり「もっと面白くしたい」「もっと追求したい」と自ら願い、実現したり問題解決するために自分の考えに基づき創意工夫する子ども達。年齢が上がれば仲間と関わりあい、自分の意見を一生懸命伝え、相手の思いを聞き、受け止め、遊びの楽しさを分かち合おうとする姿があります。

主体的な遊びは自主性や創造性、人と関わる力(協同性や協調性)、粘り強く取り組む力など「生きる力」を育み「主体的に生きる」事と深くつながっていると思います。

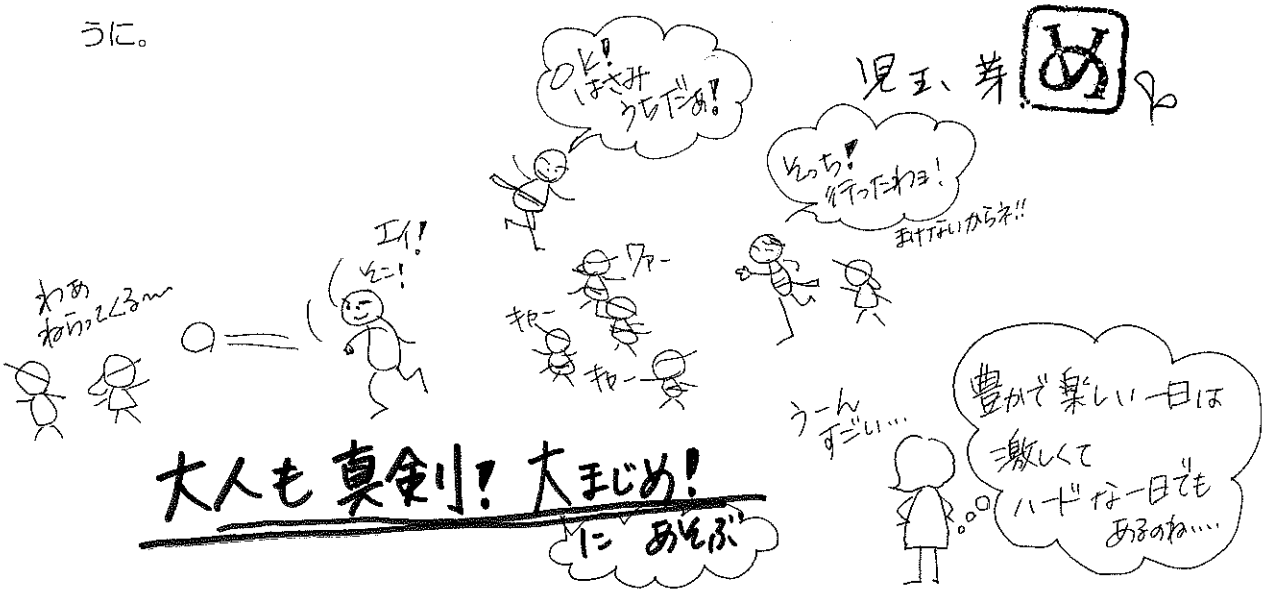
主体的な遊びには
「人生を主体的に切りひらくための学び」
が いっぱい!!

—主体的な遊びを支える保育者の役割—

その「主体的な遊び」をささえる保育者の役割は重要です。子ども達だけでは遊びの面白さの方向を見つけられなかったり、友達の思いをくみ取れなかったりします。一斉に並べて同じことを教え込むのではなく、一人ひとりの遊びを大事にしながら、遊びの面白さを通して、その子どもの、あるいは遊び集団の育ちに、「その時」に必要な援助をしていきます。本当に難しい事ですが私たち保育者自身も学びながら一生懸命関わっていきたいと思っています。

今回の「一緒に遊ぼうの日」では、ぜひ、一緒に遊びながら子ども達の遊びの「意味」を感じていただき、主体的な生活を体験していただきたいと思います。

どうぞ皆様にとって、また子ども達にとっても、豊かで楽しい一日となりますように。



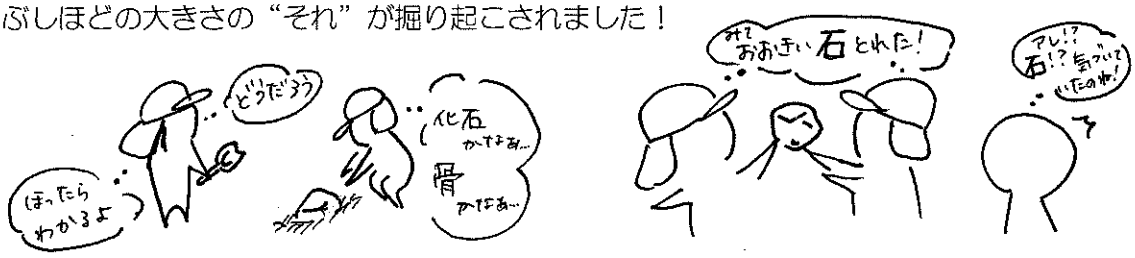
工事ごっこ

この幼稚園の特色の一つでもある「どこを掘っても良い園庭」を満喫している子どもたち。一年を通して様々なところで始まる“工事ごっこ”の様子をお伝えします。

＊トンネルの出口で…＊

通行止めの工事では自転車が通れない！そこで道の一部を区切って、順番に工事することに。三角コーンやコーンバー(新遊具を設置して下さった工事業者の方々が、遊びに使ってくださいと置いておいてくださいました)を設置して、シャベルを持ってきて…掘った砂をどうしようかと思っていたら、「これ持ってきたよ！」とトロッコを持ってきてくれました。さすが！今までの経験を物語る光景ですね。

柱の周りを中心に固い地面にも負けず掘り進めてく子どもたち、ガンッと何かに当たります。「なんだ！」「化石かなぁ」「骨かも」「大きいよね」「掘れるかな」一人の子が「オレ、小さいスコップ持ってくるよ」と走り出しました。なんだかお芋ほりの時のように丁寧に“それ”の周りを掘っていきます。２人がかりで掘り進め、子どもたちの握りこぶしほどの大きさの“それ”が掘り起こされました！



次の日も少し場所を変えながら、出てくる石を集めてみたり、砂の色の違いに気づいて子どもたちなりに考察する姿があったり、ただ掘るだけではなく見るもの感じるものに疑問をもって、追求しようとする子どもたち。「遊びを通して学ぶ」ことを体現する子どもたちの姿ですね。

＊南園庭で…＊

井戸から流れる水をすべり台横の側溝から下の側溝まで流れる溝を掘ったり、時には土粘土探しに穴を掘ったり、もしゃもしゃと地面から這い出た根っこの正体を探るべく掘削作業を行ったりなど、目的はその時々において違いますが、工事ごっこは年齢問わず人気のあそびです。

先日「一緒に工事ごっこをしよう！」と年長の女の子から誘われ、工事ごっこを始めました。とりあえず必要なのは、スコップと「ここで工事してますよ」と他の皆に周知

してもらうための三角コーン。工事の目的は？と聞くと、前日にやっていたおまんじゅう屋さんの前をきれいにしたいとのこと。南園庭は毎日のように掘削作業が行われているので、地面がデコボコしています。こすずめの子たちと三輪車を押すおうちの方も悪戦苦闘をしています。「じゃあ、いい道具があるよ。」と地面を均すトンボを出しました。それを使って、スコップで穴を埋め、トンボで均していく作業が始まりました。ギザギザがついたトンボをかけるときれいな線条模様ができることに気づいた年中の男の子は作業の合間に、模様作りを楽しんだり、平らになったところを自転車で通るように誘導したり、賑やかに工事ごっこを楽しみました。さすがは年長の女の子、実に根気よく穴や溝をスコップで埋め、そのスコップの背でポンポンと丁寧に埋めたところを均していきます。少し平らな面が出来て、自転車や三輪車も通りやすくなったようです。さあ、次回はどんな工事が繰り広げられることでしょう。乞うご期待！

＊みんなで掘ってまーす!!(おっぱい山で…)＊

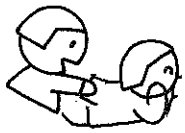
年中の男の子たちを中心に遊んでいるおっぱい山（ブランコの隣にある小さな山）の工事ごっこ。

離れた所から見ると、座って何しているのかな?という風にも見えますが(笑)その場に行くと、しっかりと掘られ、トンネルのように繋がっているところもあります。年上児が年下児に「ここを掘るなら、小さいスコップがいいよ」と教えたり、「深くしたいから、大きいスコップ持ってこよう」など、掘る場所によって、大・小のスコップを使い分けるのは、今までの経験によるものです。さすが！

連日、同じ場所で遊んでいるので、土の固さの違いにも気づきます。ある日は、とても寒い日で、山はカチコチに固くなっていました。思わず、「少しお湯でもかける？」と聞いたところ、こどもたちは「ううん、大丈夫」と。おしゃべりしながらコツコツ掘っていく、それもまた楽しい♪といったところでしょうか。また、ある日は、雨が降った翌日。その日はうってかわって、掘りやすい!!どんどん掘っていくことができました。遊ぶ楽しさはもちろん、こうした自然の現象に気づくというのも、醍醐味の１つですね。

子どもたちでどうやって掘っていくかなど出し合い、時には思いが違うこともあります。そういった時には、“話し合う”ことを学んでいくチャンスです。私たち保育者がヒントを出したりもしますが、より遊びを楽しむためにはどうしていくのがいいのか、自分たちで考えていってほしい、と願っています。その経験が遊びを深めていく力へと繋がっていきます。この工事がどんな風になっていくか、楽しみです。

あきこ
Akie☆
kumi



遊戯室前で始まりました

☆新たな遊びが…

２学期後半に遊びが繰り広げられていたパン屋さんの跡地に、マッサージ専門店がオープンしました。パン屋さんをしていた年長の女の子中心で、初めはテントの下で秘密基地を作りたいということから始まり、段ボールで自分たちの個室の部屋やキッチンを作ったり、布をテントに垂らしカーテンに見立てたり、様々なアイデアが浮かぶ子ども達。１学期は「どうする？」「こうしたらどう？」など保育者があらゆる場面で働きかけて遊びを展開していたのですが、さすが３学期！！今までの経験が蓄積されてしっかり子ども達の力になっていることを嬉しく思います。

私たち保育者もどう遊びを援助すれば、子ども達の力になっていくのか、遊びを通して子ども達が成長してくれるのか、実は色々考えているのです。

☆縦割り保育の良さが遊びにも…

ある程度理想の秘密基地が出来上がると、次に子ども達が考えたのがマッサージ屋さん。年少さん中心の遊びではこのまま秘密基地でおままごとをして遊ぶことが多いのですが、年長さんぐらいになると、秘密基地で終わらず遊びが広がっていくのです。２学期も他の場所でマッサージ屋さんが出ていました。そのことも影響したのか、いつの間にか本格的なマッサージ屋さんに変身しました。その様子を見て、年中さんも興味津々。楽しそう！と思うと自然と子ども達が寄ってきます。年長さんに対しても「入れて！」と積極的に声をかけられることができるのも、縦割り保育の良さだなと感じます。

おもしろいなと思うことは、入れてもらった年中さんはマッサージの仕事はせず、秘密基地で作りたいものを作り、その場所で過ごすことを楽しんでいるのです。同じ空間で遊びながらも、それぞれが役割を持って遊びを楽しんでします。遊びの楽しさが、子ども達から子ども達へと受け継がれていくのだと思います。

☆プロフェッショナルです！

いつもおうちの人にマッサージをしてあげているのか手つきが素晴らしく、手技を受けた保育者は、うとうと眠くなってしまうほど。マッサージを受けた後はケーキとお茶のサービスもあります。ちなみにお店の名前は“マッサージでハッピーになれる屋さん”だそうです。ネーミングからも年長さんらしい、凝った店名ですね。是非遊ぼうの日には、疲れた身体を癒しにお立ち寄りください。お待ちしております。

（AKi）

段ボール迷路ができるまで…☆

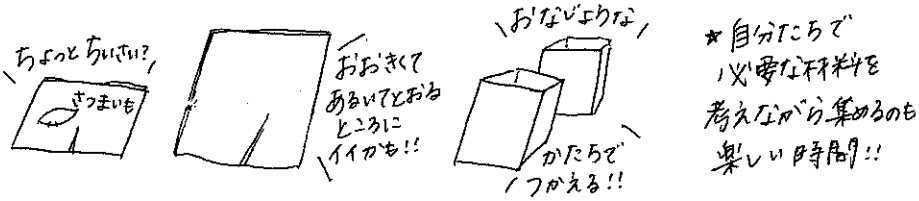
「迷路を作りたい！」という子どもたちの声から、段ボール迷路作りが始まりました！！くぐったり…扉を開けたり…行き止まりになったり…しかけもありの段ボール迷路です♪そんな段ボール迷路をどんな風に作っていったのか、紹介します！！

① 迷路作りがしたい！

お友だちが段ボールのおうちを作っているのを見て「ぼくたちは迷路が作りたい！」と提案してくれました。

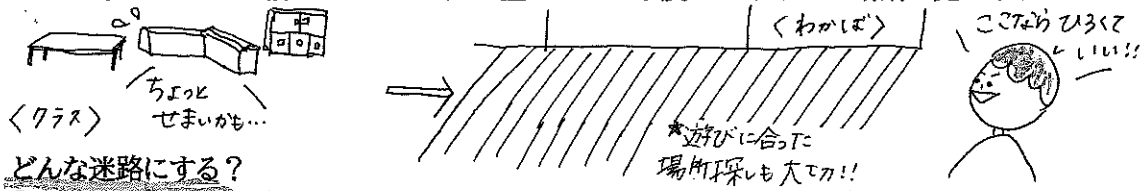
② 材料を探そう！

段ボールを探しに遊戯室へ！色々な大きさの段ボールがあって「どれにしよう～！」とかなり迷いました。



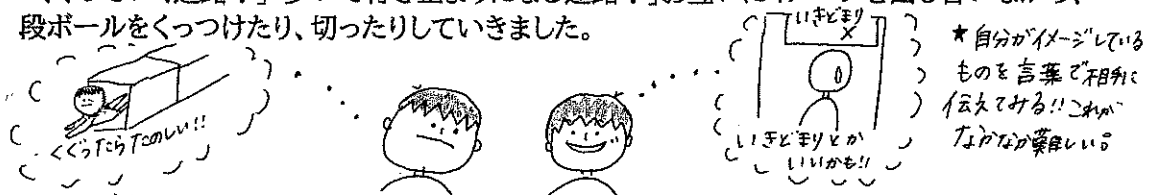
③ 場所を探そう！

はじめはクラスで作っていました。けれど「なんだか狭いよねぇ、、」となり、もっと広い場所はないかと考え“わかばの前のウッドデッキ”が空いていて丁度いい！！いい場所を見つけました♪



④ どんな迷路にする？

「くぐっていく迷路！」「歩いて行き止まりになる迷路！」お互いにイメージを出し合いながら、段ボールをくっつけたり、切ったりしていきました。



⑤ ここはぼくに任せて！

⑥ みんなで遊ぼう！

迷路を見つけた子たちが「やりた～い！」と遊びに来てくれています。遊んでいく中で「ここにこういうしかけあったほうがいいんじゃない？！」と提案してくれたり「私もちょっと作ってみたい！」と新たな道が出来たり、遊びながらも進化し続けている迷路です♪（あゆみ）

電車ごっこ

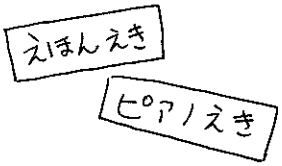
始まりは、年少さんの「電車を作りたい！」という声からでした。にじぐみの電車好きの子も誘って段ボールを遊戯室に取りに行き、「どの大きさの段ボールがいいかなー？何枚いる？」など相談しながら選び、わっせわっせとウキウキしながら運びました。

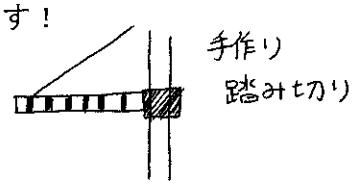
こんなのが作りたい！とイメージがあったようで年少さんが黙々と作っていると「何してるの？」興味を持った子が声をかけにきました。電車を作っている事が分かると、「私も作りたい！！」と仲間が増えていき、電車の数も増えました。

「ちょっと乗ってみようか？」「シュッシュ！」「どこいくー？」

そんな会話から、保育者が「線路敷こうか！」と床にビニールテープで線路を作ると、また別の子が「駅がいるんじゃない？ぼくが作ろうか？」と参加。「いいね！じゃあ今度は踏切を作ろう！！」保育者が「カンカンカン」と言いながら遮断機の竿を上げると「先生、ちがうよ！！カンカンと鳴っているときは竿が下がる時！！」と踏切に詳しい子どもから指摘を受け、やり方を教えてくれました（笑）

このように、一人から始まった遊びに多くの子どもが関わり、遊びが広がっていくことがあります。新しい友だち、新しい遊びとの出会いに繋がる機会を逃さないよう、子ども達の声をしっかり聞いて関わっていきたいと思っています。またそれぞれの子どもの好きな事・得意な事が遊びの中で発揮され、自己肯定感に繋がるよう願い遊んでいます！



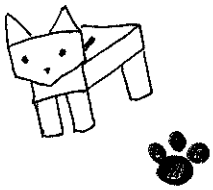


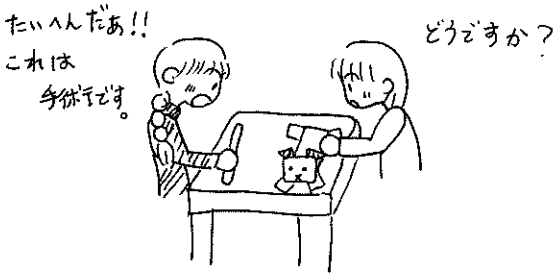
どうぶつのもり！みたい

制作が大好きな年少の女の子とあき箱を使って犬作りの続きをしていると、近くに同じく制作が好きな年中の女の子が通りがかり「私段ボール切るの得意だから手伝ってあげる！」と犬のお家作りを手伝ってくれることに！ごっこ遊びが好きな年中女の子も誘うと「いいね！私はトイレと、お風呂と、ご飯食べるところを作るよ！！」と一人では考えつかなかったようなアイディアを出してくれました。ペットの家やマンションが出来ると「なんだかどうぶつのもりみたいだね。」という友だちの言葉を聞き年少さんが「じゃあさ、どうぶつの病院をつくるのはどうかな！？」「いいねー！！！」「これが病院のベットってことね。（机）」「私受付やるー！」

このように、ごっこ遊びは子どもの空想・想像力を豊かにしてくれます。また、互いにアイディアを出し合い、意見を言って共感して、遊びを深めていく経験がコミュニケーション力を、相手と交渉したり、折り合っていく体験の積み重ねが「自分の気持ちをコントロールする」という自制心を育てていきます。夢中になって遊べば遊ぶほど、豊かな学びができるってすごいですよね。１日いちにち大切に遊びたいと思います！！

ねこ





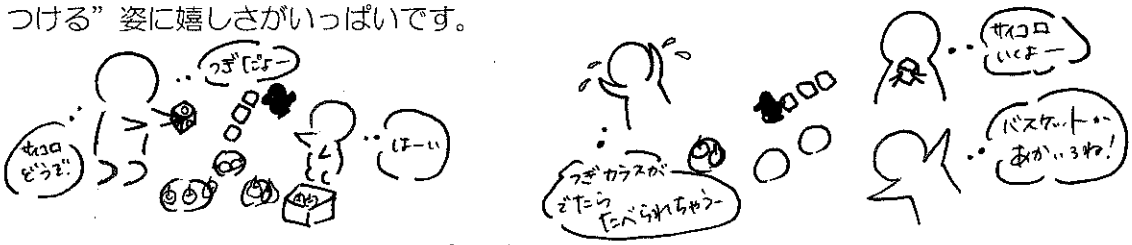
（まお）

お部屋でゲーム

今学期の入り、各クラスに新しいカードゲームやボードゲームが仲間入りしました。体操までの朝の時間や食後室内でゆっくり過ごす時間に、多くの子ども達が楽しんでいます。

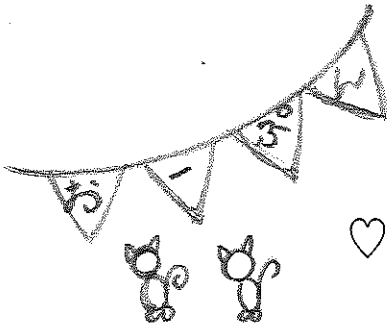
＊「カラスのやりたい！」＊

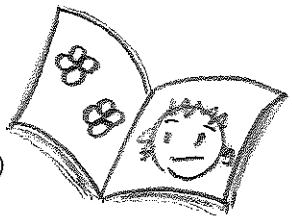
ほし組にはカラスから果樹園の果物を守るゲームがあります。子どもたちはそれを「カラスの」と呼んでいます。ルールがとっても簡単なので、年少児だけでなくにじ組の子ども達も交ざって遊んでいます。「ちいさい子からね」「サイコロやる？」普段から年下児のことも、一緒に生活する仲間として認めていることが伝わってきます。もちろん“手加減なし”なこともありますが、「にじさんだから、年長とペアでやる？」「年少さんもできるようにちょっと待とう」と相手を思いやり、“いっしょにできる方法を見つける”姿に嬉しさがいっぱいです。



他にもカードを見て手元のカップやゴムの色をそろえるものや、指先に集中してバランスを崩さないようにするもの、ウサギやネズミなど動物をモチーフにしたものまで、各クラスにいろいろな種類のゲームがあります。

あきこ





♡開店はもうすぐですか♡

ごっこ遊びが大好きな子どもたち。３学期になると、年長さん年中さんだけでなく、年少さんもお友だちと一緒に遊ぶ楽しさを、より一層感じながら過ごしているように思います。エプロンをつけてレストランごっこをしていたり、アニメのキャラクターになりきって竹の筒を加えて走っていたり。春からキッチンカーなどを使ってお店をたくさんオープンさせていたひつじぐみさんですが、最近、絵本を作り始めている年少さんがいます。保育者の真似をして書き始めた絵本には、可愛らしい絵がいっぱい。文章は書いてありませんが、話を聞いてみるとステキなストーリーがちゃんとあります。真っ白な紙に一生懸命描くその表情を見ていると、頭の中ではどんな楽しい世界が広がっているのだろうかと、想像するだけでワクワクしてしまいます♪

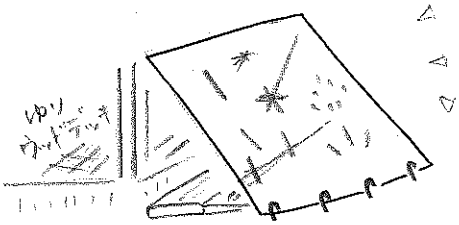
絵本を１冊書き終えると、「絵本屋さんやりたい！」と積極的な嬉しい言葉が♡

「どうやってお店を作る？」と聞いてみると「段ボールがいい！」と即答だったので、一緒に遊戯室の倉庫へ探しに行きました。しかし、イメージしていたよりも小さな段ボールしか残っていない…「う～ん、ないねぇ、困ったねぇ」と声をかけると、「小さいのをくっつけたら大きくなるよ」と。クラスに運び、自分で段ボールカッターを持ってきて作り始める姿を見て、年上児の背中を見てきたこれまでの経験が年下児の力となっていること、またこの年少児の姿を見たにじぐみさんたちが受け継いでいってくれるという繋がりを感じました。

お店を作っていると「いれて～」と仲間が増え、お店屋さんのピンクのお洋服も作りました。絵本の数も少し増えました。出来上がった小さなお店には、今、お店屋さんと可愛い猫ちゃんたちが住んでいます。最初は「お店で絵本と御守りを売りたい♪」と言っていましたが、今はお友だちと一緒に猫ちゃんのおうちごっこをしていることが楽しそう。お店屋さんごっこが深まっていくように看板づくりに誘ってみようかな…、それとも猫ちゃんグッズを提案した方がいいのかな…、しばらくは見守って子どもたちに任せるべきなのか…。子どもたちの「やりたい！」から始まる遊びをどのように認め、ふくらませていくのかはとても難しく、保育者も時に迷います。子どもたち自身が自分の力でたくさんの経験ができるように…。正解のない保育を子どもたちと一緒に作っていきたいと思っています。

さて、開店するのかな？　　（Rina）

基地づくり

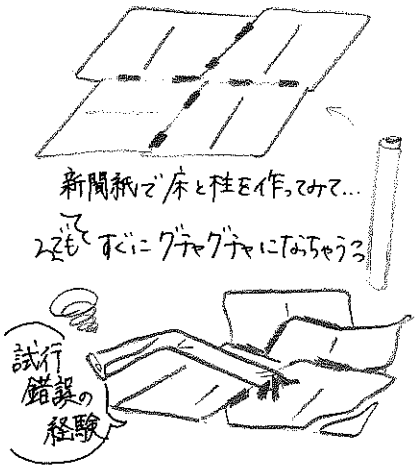


ゆりぐみ前のウッドデッキにシートでできた屋根が完成しました。年中さんが中心となって作った“基地”です。子どもたち曰く、「(目立つ場所にあって)秘密じゃないから、秘密基地じゃないんだよ。基地なんだよ」とのことです。

ゆりぐみウッドデッキには二学期には海賊船が作られていて、そこを拠点にして遊んでいる子どもたちがいました。常にそこで遊んでいなくとも、ふとした時に集まってこられる、そんな安全地帯のような場所だったように思います。特にそこで何かをするわけでもなく、ただそこに集まってぐるっと周りを眺めてみたり、お茶を飲んで一息ついてからまた遊びに戻っていってみたり……、そういった場所はきっとどの子にもあると思いますし、大人にもあると思います。

そして三学期、海賊船に代わる場所として基地づくりが始まりました。

「日向ぼっこできるといいよね」「テントみたいに中に入れるのがいいなぁ」という子どもたちの意見。子どもたちと相談してシートを使っての基地を作ることに決定！ 実は今回完成した基地を作る前に、子どもたちはクラス内に新聞紙でテントを作ろうとしていました。その時で問題になったのは強度。新聞紙はすぐに破けてしまうこと、水に弱いことを子どもたちはよく知っていました。新聞紙に代わる素材でテントになるようなもので、日差しを通せるもの……そうして辿り着いたのがシートでした。これまでの生活や遊びを通しての経験を活かして、考えた末の答えでした。



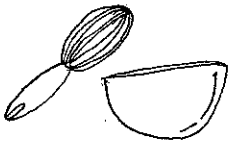
シートにはビニルテープを使って飾り付けがしてあります。年中さんや年少さんを中心に、子どもたちが自由に飾りました。中にはビニルテープを貼りながら、お話を作り始める子も。思い思いにビニルテープを貼ったシートは基地内から見ると透き通っていてとってもきれい！ ぜひ見てみてくださいね♡

できあがった基地に早速寝転がってみると……「ざら板のままだと固いから、ふわふわにしたいね」「布を引けばいいんじゃない？」、「枕とかも欲しいよね」「綿で作る？」などと、早くも基地のグレードアップ計画が……！ 自分たちで意見を出し合いながら、より良いものにしようと考えること，自分たちのイメージを形にしていくこと……基地づくりではそんな姿がまだまだ見られそうです。

今後、この基地を拠点にしながら、どのように遊びが展開していくか楽しみです！

（ゆか.）

ままごと楽しい～



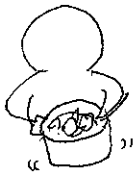
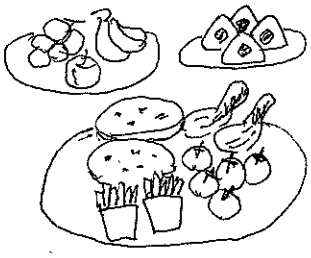
「今日はお母さんになる」「私はお手伝いお姉さんがいい」「赤ちゃんにしようかな…」クラスにある**ままごとコーナー**に入って、子どもたちが話しています。今日は誰がどんな役になるかを決めたり、お弁当を持って出かけることにしたり、お店屋さんが始まることもあります。お母さんになりたい人が何人もいる時は、お料理母さんに、お掃除母さん、お買い物母さんという風にお母さんが何人もいたり…と子どもたちは柔らかい考えで遊んでいきます。ままごと遊びは、子どもたちの現実の姿と「こんな風だったら良いな」とか「こうありたい」という理想の姿が混在する面白い空間になっています。

カチャカチャと音を立てて、鍋をお玉でかき混ぜています。中には、おもちゃの野菜や肉が入っていて、塩や胡椒をイメージしているのか調味料入れを片手に持って振っています。なかなかの手つきです。また料理をお皿に盛ってテーブルに並べ、パーティーの始まりです。料理やフォーク、スプーンの並べ方に色を合わせていたり、サイズを揃えていたりして、とてもおしゃれで感心することもあります。

こんなことを子どもたちはどこで、学んでいるのでしょう・・・日常生活の中で子どもたちは大人の私たちが思う以上にたくさんのことを見て、聞いて学んでいます。料理する人たちを見て、何を入れているか、どんな風にフライパンを振っているか、子どもたちの手つきの良さはそこからかもしれません。真似て遊びながら、実体験している感覚を持ち自己充実したり、理想の自分を生きているのだと思います。

先日、子どもたちからこんな風にお誘いを受けました。「今日は、食べ放題だからね。いいでしょう～好きなものを何回も食べられるんだよ。食べにきて！」と。行ってみると料理やデザートが分けて並べられていました。またお皿が積まれていて、トングも用意されています。これは主食で、これが副食…と一つひとつを教えてもらったわけではなく、日常の経験を通して感覚で学んでいる子どもたちの力を目の当たりにしました。

一緒に遊んでいる子どもたちは、みんなが同じ経験をしているわけではないので、言葉を駆使して個々のイメージを伝え合い、その遊びへの思いを合わせていました。

「ここで、ジュースがいろいろ選べるんだよ」
「コーヒーとかもあるよね」
「あった、あった。お茶もあったし、水もあった」
「じゃあ、ここにコップを並べる？」
「そうだね」

こんな風にイメージが合致した時、（そうなんだよ）という心の声が聞こえてきそうな空気にその場が満たされます。思いやイメージを言葉にして伝えることは容易ではありません。伝えたい⇄分かりたいという互いの【わかりあいたい】という気持ちが育っていることを感じる瞬間です。